

平成24年度全国学力・学習状況調査

国語B：主として活用の分析

呉市立昭和西小学校

<成果>

- 無回答率が低い。(全11問中2問 各1名ずつが無回答)
- 司会として収集した情報を捉え、まとまりごとに整理する問題(81.9%)や目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉える問題(80.6%)など選択式の問題についての正答率が高い。

<課題>

- 平均正答率が全国平均・広島県平均に至っていない。
(平均正答率 49.1%)
- 依頼状や案内状など実用的な文章を書く経験が少ないためか、手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を選択する問題(平均正答率18.1%)が特に正答率が低かった。
- 「評価の観点」から見ると、書く能力(平均正答率34.2%)が、「問題形式」から見ると、記述式(平均正答率31%)が低く、文章や資料から必要な部分を読み取り、提示された条件に合わせて、自分の考えを書くことに課題が見られる。

<これからの全校での取組>

- ①西風タイムにおける習熟度別学習
各学年において、週1回(水曜日5校時)習熟度別学習を取り入れ、特に習熟しにくい児童に対して、個に応じた指導を行い、基礎的・基本的知識・技能を身につけさせる。
- ②書くことを重視した指導
国語科において、自分の考えや思いを書く活動を多く取り入れる。高学年においては、目的や意図、字数などの条件を設定し、それに合うような文章を書くことも取り入れる。
- ③すべての教科等における言語活動の充実
記録・要約・説明などの言語活動を効果的に設定することにより、基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てていく。